

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(40歳代男性)ありました。症状は発熱、全身倦怠感、菌血症で、本年の累積報告数は58例となりました。
- ・ 梅毒の報告が1例(20歳代女性)ありました。症状は丘疹性梅毒疹、頸部リンパ節腫脹で、感染地域は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は54例となりました。

梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。

京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を匿名で実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。

○京都市情報館「京都市のHIV検査について」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

- ・ 百日咳の報告が1例(20歳代女性)ありました。症状は持続する咳です。感染地域、感染経路は不明です。本年の累積報告数は91例となりました。

◆ 今週のトピックス: <ダニ媒介感染症>

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニにかまれることによって起こる病気のことです。病原体の種類には細菌とウイルスがあります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 6例(肺結核 3例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 3例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 248例(肺結核 108例, その他結核60例, 潜在性結核感染者 80例)うち喀痰塗抹陽性 52例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 58例】
- ・ 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 54例】
- ・ 五類: 百日咳 1例【1月以降の累積報告数 91例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.52	36
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.77	119
	② RSウイルス感染症	1.28	55
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.12	48
	④ 手足口病	0.74	32
	⑤ ヘルパンギーナ	0.49	21
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ダニ媒介感染症>

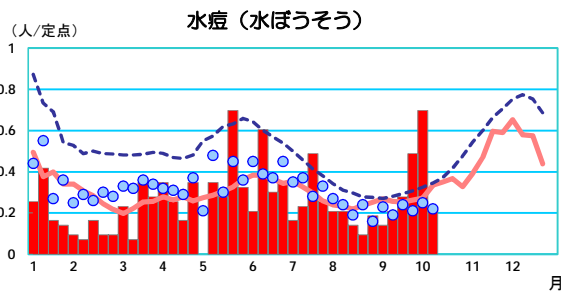
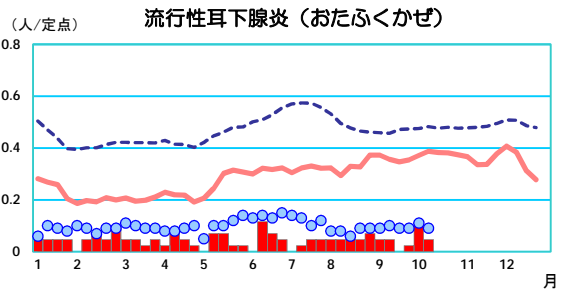
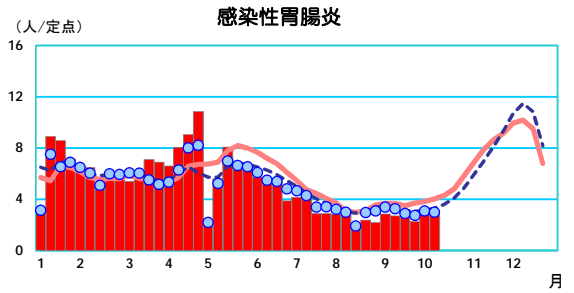
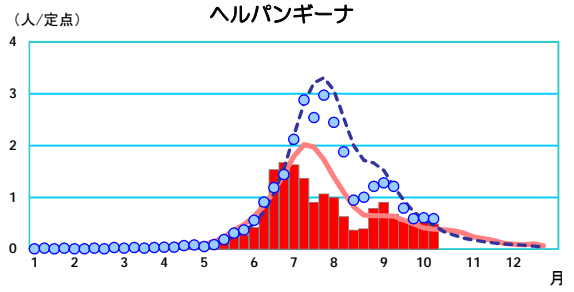
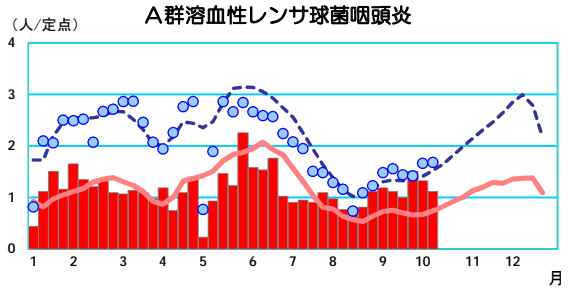
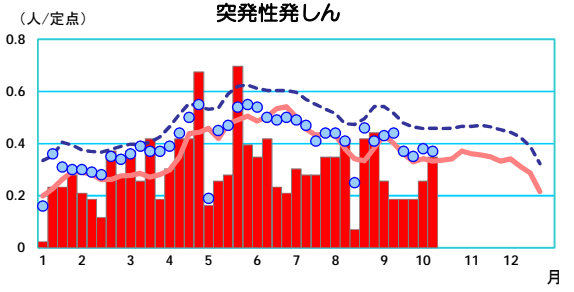
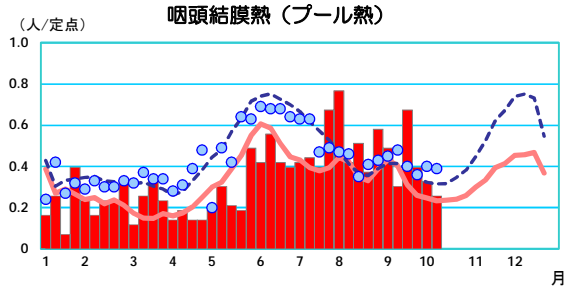
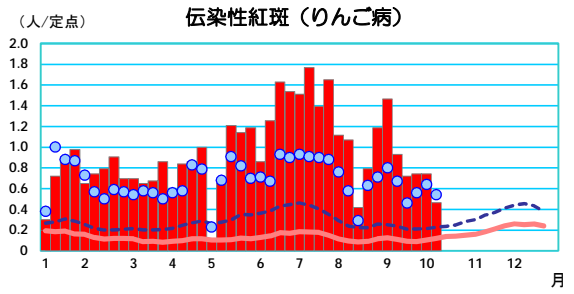
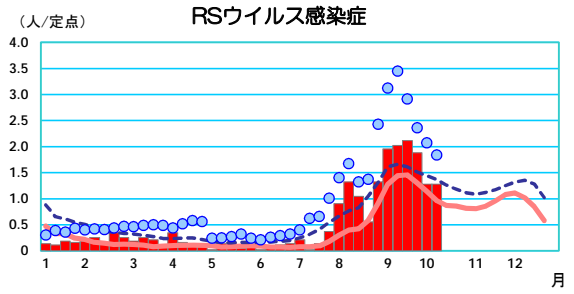
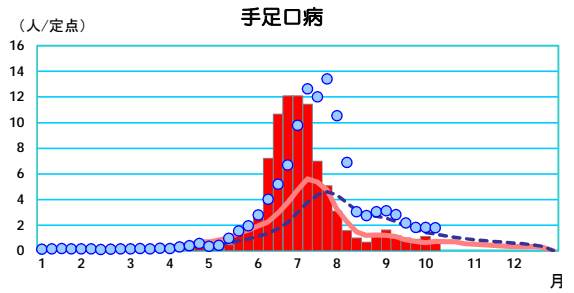
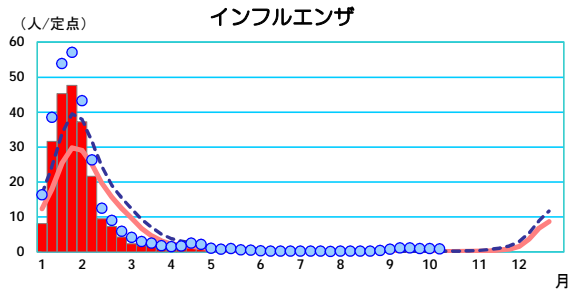
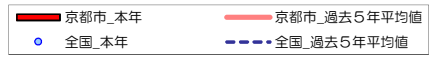
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年10月16日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第41週(10月7日～10月13日) トピックス: <ダニ媒介感染症>

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニにかまれることによって起こる病気のことです。病原体の種類には細菌とウイルスがあります。

細菌*が原因の感染症には、日本紅斑熱、Q熱(きゅーねつ)、つつが虫病、ライム病、野兎病(やとびょう)などがあり、ウイルスが原因の感染症には重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎などがあります。

*病原体はリケッチア、スピロヘータと分類される場合もあります。リケッチアもスピロヘータも細菌の一種です。

京都市では、2014年以降に、日本紅斑熱が2015、2017年に各1例、本年は第41週までに3例、また、SFTSが2016年に1例の報告がありました(表1)。2013年以前に遡っても、日本紅斑熱が2011年に1例、Q熱が2001、2004年に各1例と報告数は非常に少ないです。しかし、ダニ媒介感染症には致死率の高い疾患があり、実際に、京都市に隣接する滋賀県では、本年9月に日本紅斑熱による50代男性の死亡例がありました。

全国の発生状況を2014年以降で見ると、Q熱、ダニ媒介脳炎、野兎病及びライム病はほとんど報告がないか、もしくは少数である一方で、SFTS、つつが虫病及び日本紅斑熱の報告が比較的多くなっています(表1)。これらの感染症の発生動向を週別平均報告数で見ると、日本紅斑熱の報告数は5月から11月に多く、つつが虫病は10月中旬から12月にかけて急増する傾向があります(図1)。

マダニやツツガムシなど、ダニの種類によって持っている病原体は異なりますが、病気にならないための予防策はダニにかまれないようにすることです。これからの季節はハイキングや山菜採りなどで、ダニが多く生息する野山や藪などに近づく機会が増えます。予防対策には大きく分けて二つあり、一つは肌を露出しない服装をすること、もう一つは忌避剤(虫よけ)を使用することです。

小児は自分自身で感染症を予防するという意識が少なく、ハイリスクの場所や服装に注意が及びにくいので、大人からの助言や服装をチェックすることで感染症から身を守る意識付けをしましょう。また、虫よけ剤は使用上の注意をよく読んで使いましょう。

野山で活動した後は体調の変化に注意し、発熱等の症状があれば医療機関を受診して下さい。皮膚に付着したダニを見つけた時は無理に引き抜こうとせず、皮膚科などで除去してもらいましょう。

京都市衛生環境研究所では、マダニに関する情報を御紹介していますので、ぜひ御覧ください。

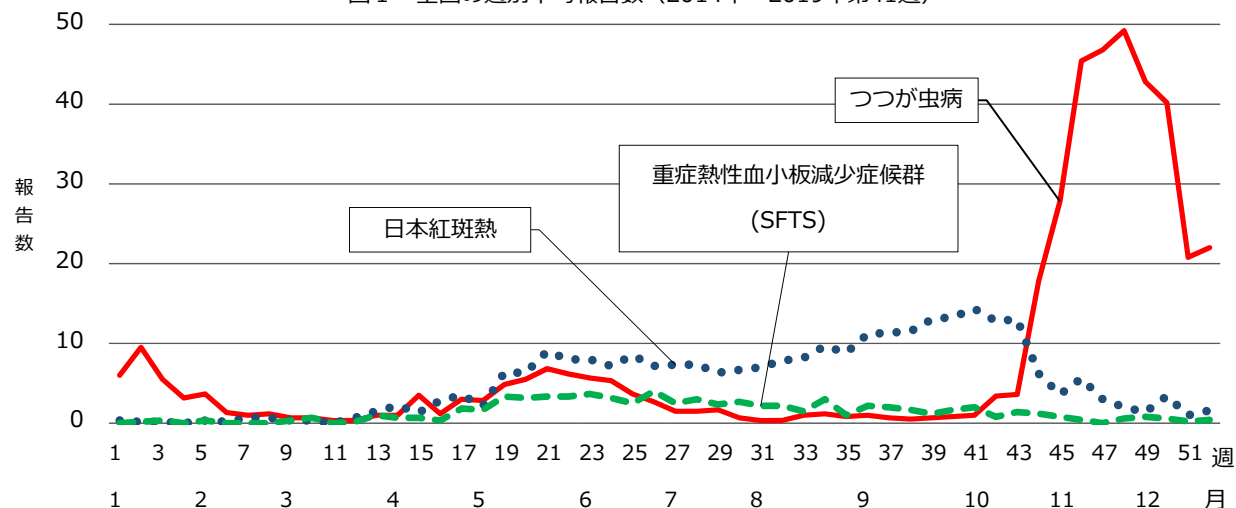
【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゆーす(平成29年度 第1号) マダニにご注意!

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>

表1 京都市及び全国のダニ媒介感染症の報告

		2014	2015	2016	2017	2018	2019 (41wまで)
Q熱	京都市	-	-	-	-	-	-
	全国	1	-	-	-	3	-
重症熱性血小板減少症候群	京都市	-	-	1	-	-	-
	全国	60	58	57	90	77	88
SFTS	京都市	-	-	-	-	-	-
	全国	-	-	1	2	2	-
つつが虫病	京都市	-	-	-	-	-	-
	全国	308	413	494	447	455	88
野兎病	京都市	-	-	-	-	-	-
	全国	1	2	-	-	-	-
日本紅斑熱	京都市	-	1	-	1	-	3
	全国	241	215	276	337	305	224
ライム病	京都市	-	-	-	-	-	-
	全国	15	9	8	19	13	13

図1 全国の週別平均報告数(2014年～2019年第41週)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第41週

疾病,行政区別報告数

2019年10月7日～2019年10月13日

データ入手日:2019年10月16日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	2	2	-	2	3	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	2	6	2	6	19	1	6	3	1	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	4	2	-	2	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	1	5	-	-	16	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	14	4	1	3	1	-	2	2	2	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
下京	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	2	-	-	1	7	3	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	2	20	1	21	13	1	5	2	3	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-
伏見	8	18	7	8	44	4	10	10	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	1	-	-	2	14	-	4	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	36	55	11	48	119	9	32	20	15	21	2	-	3	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	0.43	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	0.40	0.67	-	0.67	1.00	-	-	0.33	0.67	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	0.29	1.50	0.50	1.50	4.75	0.25	1.50	0.75	0.25	1.75	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	1.33	0.67	-	0.67	0.33	0.33	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	0.33	2.50	-	-	8.00	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	2.00	0.80	0.20	0.60	0.20	-	0.40	0.40	0.40	0.20	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-
下京	0.33	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	0.40	-	-	0.33	2.33	1.00	0.67	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	0.25	4.00	0.20	4.20	2.60	0.20	1.00	0.40	0.60	0.60	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-
伏見	0.73	2.57	1.00	1.14	6.29	0.57	1.43	1.43	0.57	0.43	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	0.13	-	-	0.40	2.80	-	0.80	-	0.40	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	0.52	1.28	0.26	1.12	2.77	0.21	0.74	0.47	0.35	0.49	0.05	-	0.30	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第41週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年10月7日～2019年10月13日

データ入手日:2019年10月16日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	36	-	1	-	4	2	6	5	1	2	2	-	5	-	-	6	1	-	-	-	1
RSウイルス感染症	年齢3	55	2	14	22	9	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		11	-	1	6	-	1	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		48	-	1	-	1	5	2	9	12	4	3	3	5	-	3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		119	2	7	12	11	17	18	10	7	6	6	1	11	3	8	-	-	-	-	-	-
水痘		9	1	1	-	-	-	-	1	1	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		32	-	4	9	9	5	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		20	-	-	2	-	-	2	3	3	3	2	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		15	-	4	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		21	-	2	3	5	4	1	2	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.52	-	0.01	-	0.06	0.03	0.09	0.07	0.01	0.03	0.03	-	0.07	-	-	0.09	0.01	-	-	-	0.01
RSウイルス感染症	年齢3	1.28	0.05	0.33	0.51	0.21	0.09	0.07	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.26	-	0.02	0.14	-	0.02	-	0.02	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.12	-	0.02	-	0.02	0.12	0.05	0.21	0.28	0.09	0.07	0.07	0.12	-	0.07	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.77	0.05	0.16	0.28	0.26	0.40	0.42	0.23	0.16	0.14	0.14	0.02	0.26	0.07	0.19	-	-	-	-	-	-
水痘		0.21	0.02	0.02	-	-	-	-	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.74	-	0.09	0.21	0.21	0.12	0.02	0.05	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.47	-	-	0.05	-	-	0.05	0.07	0.07	0.07	0.05	0.05	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.35	-	0.09	0.21	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.49	-	0.05	0.07	0.12	0.09	0.02	0.05	0.07	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.30	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	0.10	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第41週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年10月16日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	46	50	50	47	32	36
RSウイルス感染症	84	87	91	81	55	55
咽頭結膜熱	21	13	29	17	14	11
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	48	43	65	57	48
感染性胃腸炎	123	116	116	97	129	119
水痘	6	9	12	21	30	9
手足口病	70	50	43	38	48	32
伝染性紅斑	63	40	31	32	32	20
突発性発しん	11	8	8	8	11	15
ヘルパンギーナ	39	29	23	20	22	21
流行性耳下腺炎	2	2	-	1	5	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	9	1	1	5	3
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	522	461	447	428	440	371

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.67	0.72	0.72	0.68	0.46	0.52
RSウイルス感染症	1.95	2.02	2.12	1.88	1.28	1.28
咽頭結膜熱	0.49	0.30	0.67	0.40	0.33	0.26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.19	1.12	1.00	1.51	1.33	1.12
感染性胃腸炎	2.86	2.70	2.70	2.26	3.00	2.77
水痘	0.14	0.21	0.28	0.49	0.70	0.21
手足口病	1.63	1.16	1.00	0.88	1.12	0.74
伝染性紅斑	1.47	0.93	0.72	0.74	0.74	0.47
突発性発しん	0.26	0.19	0.19	0.19	0.26	0.35
ヘルパンギーナ	0.91	0.67	0.53	0.47	0.51	0.49
流行性耳下腺炎	0.05	0.05	-	0.02	0.12	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.60	0.90	0.10	0.10	0.50	0.30
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	12.20	10.97	10.03	9.62	10.34	8.54

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。